

文化庁メディア芸術祭 開催概要決定！

ART × ENTERTAINMENT × ANIMATION × MANGA

アート・エンタ・アニメ・マンガの160作品。表現の進化を感じる11日間。

文化庁と国立新美術館、CG-ARTS協会は、「第11回文化庁メディア芸術祭」を2008年2月6日から17日までの11日間、国立新美術館で開催します。

受賞作品展では、世界43の国と地域の応募作品から選ばれた、アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの優秀作品、約160点を紹介。強いメッセージを持ち、時代を切り開く革新的な作品の数々を、ジャンルを横断してご覧いただくことができます。

さらには、シンポジウムや上映会を実施するほか「学生CGコンテスト受賞作品展」、表現のための新技術を紹介する「先端技術ショーケース'08」、海外のメディア芸術の祭典を紹介する「Media Art in the World」、アジアからの留学生と日本人学生が共同で短編アニメーションを制作する「アジア学生アニメコラボレーション」など、会期中を通して多彩なイベントを予定しています。イベント情報は、Webサイトにて随時更新中ですので、ご参照ください。

* 2月5日の15時00分よりプレス向け内覧会を予定しております。詳細は別紙をご覧ください。

昨年度の作品展の様子

第11回 文化庁メディア芸術祭 開催概要

名称 第11回文化庁メディア芸術祭 (11th Japan Media Arts Festival)
会期 2008年2月6日(水)-2月17日(日)10:00-18:00
[金曜は20時迄/入館は閉館の30分前迄/2月12日(火)休館]
会場 国立新美術館【入場無料】
[地下鉄「乃木坂」直結、地下鉄「六本木」徒歩4~6分]
URL <http://plaza.bunka.go.jp/>
主催 文化庁メディア芸術祭実行委員会
[文化庁・国立新美術館・CG-ARTS協会]
問合せ CG-ARTS協会「文化庁メディア芸術祭事務局」
フリーダイヤル0120-454536 / E-mail contest@plaza.bunka.go.jp



今回のメディア芸術祭7つの見どころ

- 1 世界43の国と地域から過去最高となる2,091作品の応募。受賞作品と推薦作品を約160点紹介。
- 2 アート、エンターテインメント、アニメーション、マンガ、各々の展示が充実していることはもちろん、ジャンルの垣根を越えて新たな発見があるのがメディア芸術祭の魅力です。
- 3 国立新美術館の2,000平米、天井高8mの大型空間での展示。(前回と比較して約2倍の広さ)
- 4 アニメーション、VFX、ミュージックビデオ、CM、アート映像など、多彩なジャンルの映像を上映。
- 5 「アルス・エレクトロニカ」や「オタワ国際アニメーションフェスティバル」など、世界中にあるメディア芸術の祭典や海外優秀作品を知ることができます。
- 6 SIGGRAPH「Electronic Theater」のオリジナルフルバージョンをハイビジョンシアターで上映。映画「マトリックス」などで使われているCG技術を開発したポール・デベヴェック氏の講演も開催。
- 7 8つのシンポジウムや、同時開催イベントは、いずれもメディア芸術祭ならではのものばかりです。

この件に関する問合せ先

CG-ARTS協会 広報 篠原・千葉 広報分室 友野・安藤(ブランデックス・ジャパン) TEL 03-3564-2361
東京都中央区京橋1-11-2 TEL 03-3535-3501 FAX 03-3562-4840 URL: <http://plaza.bunka.go.jp/> E-mail info@cgarts.or.jp

A1. 文化庁メディア芸術祭 受賞作品展

世界43の国と地域から集まった2,091作品から選ばれたアート、エンターテインメント、アニメーション、マンガの優秀作品、約160点を紹介。部門ごとに受賞作品と審査委員会推薦作品を展示しています。ジャンルの垣根を越えて広がり続ける“メディア芸術”の世界を一堂に見ることのできる貴重な機会です。

■アート部門

メディアテクノロジーは誰かにメッセージを伝えるためにある。そのことをあらためて感じさせる世界中から集まった多様なアート作品に出会うことができます。

インタラクティブアート(10作品)／インスタレーション(9作品)／映像(11作品)／静止画(10作品)／Web(8作品)／その他(4作品)【合計52作品】



©Sonia Cillari

■エンターテインメント部門

ポータブルから高解像度、新たな入力装置を伴った新世代のゲーム、映像表現、Web、遊具、本に至るまで、広範囲に拡散しつつある革新的なエンターテインメント作品を体験することができます。

ゲーム(12作品)／遊具(6作品)／キャラクター(2作品)／映像(13作品)／Web(10作品)／その他(2作品)【合計45作品】



©2006 Nintendo

■アニメーション部門

映画やテレビ等の商業作品から個人制作の短編アニメーションにいたるまで、さまざまなジャンルのハイレベルなアニメーション作品を上映。絵コンテやシナリオなど貴重な資料も展示します。

劇場公開アニメーション(3作品)／TVアニメーション・OVA(12作品)／短編アニメーション(21作品)【合計36作品】



©Yamamura Animation / SHOCHIKU

■マンガ部門

マンガは日本のメディア芸術の根幹であるといっても過言ではないでしょう。閲覧コーナーでは、ビジュアルの斬新さに加え、テーマの多様さと深さにも注目してください。作家直筆の精緻な原画も展示します。

ストーリーマンガ(15作品)／コママンガ(1作品)／自主制作マンガ(6作品)／オンラインマンガ(4作品)／その他(2作品)【合計28作品】



©Yukari Ichijo / SHUEISHA

A2. 学生CGコンテスト 受賞作品展

若い才能の発掘を目的とした学生CGコンテストは今回で13回目となります。静止画、動画、インタラクティブの3部門に応募があった1,195作品から選ばれた優秀作品を展示。学生ならではの発想力や視点を持ち、技術力を駆使して新しい世界を創り上げている若い世代のクリエイティビティをご覧ください。表彰式は2月10日(日)13時より国立新美術館講堂にて開催します。

[主催：CG-ARTS 協会]

A3. 「先端技術ショーケース'08-未来のアート表現のために-

“先端技術でつなぐ More Communication”をテーマに、未来のアート表現のための新技術や、最先端技術が生み出す表現の可能性を紹介。声や身ぶり、光などを使ってさまざまなコミュニケーションを可能にする技術を体験していただけます。

[主催：文部科学省・独立行政法人科学技術振興機構]

A4. 「Media Art in the World」[展示]

世界で新しく生まれ、成長し続けているメディア芸術の祭典をレポート。アメリカ、ヨーロッパ、アジア、オセアニアでの代表的なフェスティバルを映像とパネルで紹介します。世界と対置することで、日本のメディア芸術の状況を明らかにしていこうという試みです。

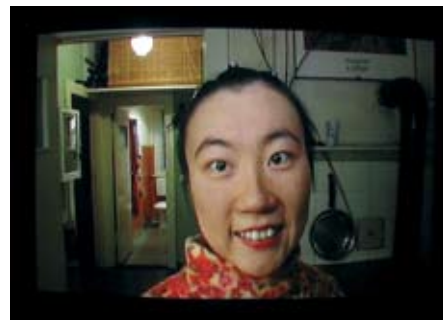
B1. 文化庁メディア芸術祭 映像作品

劇場公開アニメーション、TVアニメ、個人制作による短編アニメーション、VFX、ミュージックビデオ、CM、アート映像など、さまざまなジャンルの映像作品を楽しむことができます。

- アート部門 映像作品 (11 作品)
- エンターテインメント部門 映像作品 (13 作品)
- アニメーション部門 短編作品 (21 作品)
- 劇場公開アニメーション全編上映 (3 作品)
- TV アニメーション・OVA (12 作品)



©2007 木暮正夫 / 「河童のクウと夏休み」製作委員会



©Effie Wu

B2. 「学生 CG コンテスト 動画部門優秀作品」

第13回学生CGコンテスト動画部門の受賞作品とノミネート作品を合わせた全32作品を上映。立体や手描きのアニメーション、確かなキャラクター造形力によって描かれた作品、独自のプログラミングによって創り出された作品など、若さ溢れるチャレンジングな作品をご覧ください。[主催：CG-ARTS 協会]

B3. 「Media Art in the World」 [プレゼンテーションと上映]

CGとインタラクティブ技術の祭典「SIGGRAPH」、ASIAF公認の世界5大アニメーションフェスティバルの一つ「Ottawa International Animation Festival」、ヨーロッパのメディアアートフェスティバルからは「Ars Electronica」と「Transmediale」、アジア最大級のアニメとマンガの祭典「SICAF」、南半球からは「Electrofinge」など、海外のメディアアートフェスティバルの優秀作品を上映。それぞれのフェスティバルディレクター等によるプレゼンテーションを上映前に行なう特別プログラムもあります。

- SIGGRAPH Electronic Theater / シーグラフ・エレクトロニックシアター (アメリカ)
出演：ポール デベヴェック (SIGGRAPH2007 アニメーションフェスティバル チェア)
- Ottawa International Animation Festival / オタワ国際アニメーションフェスティバル (カナダ)
出演：ケリー ニール (OIAF マネージングディレクター)
- Transmediale / トランスメディアレ (ドイツ)
出演：ステファン リケレス (Transmediale プロジェクトマネージャー兼キュレーター)
- SICAF / シカフ (韓国)
出演：ジニー チュウ (SICAF プログラマー兼マネージャー / SIGGRAPH ASIA 2008 アニメーションフェスティバル チェア)
- Ars Electronica / アルス・エレクトロニカ (オーストリア)
- Electrofinge / エレクトロフリンジ (オーストラリア)

* 日程は講堂スケジュールとシアタースケジュールをご覧ください。

* 劇場公開アニメーションはデジタルシネマ方式で全編上映の予定。

* SIGGRAPH Electronic Theater は、市販ビデオ版ではなくフルバージョンをハイビジョンで上映。

* Ars Electronica と Electrofinge は、フェスティバルディレクターの出演はありません。

C1. 「受賞者シンポジウム」

第11回文化庁メディア芸術祭の受賞者と審査委員による「受賞者シンポジウム」。

受賞作品が創り出された背景やコンセプト、制作秘話などを紹介するとともに、今年度の芸術祭を部門ごとに総括します。

- アート部門受賞者シンポジウム [2月8日(金)18:00-19:30]
司会：原田 大三郎 (アート部門主査 / 多摩美術大学教授)
出演：ソニア チツラリ (優秀賞『Se Mi Sei Vicino』オランダ)
エフィー ウー (奨励賞『Super Smile』ドイツ)
- エンターテインメント部門受賞者シンポジウム-1 [2月11日(月・祝)16:00-17:30]
司会：水口 哲也 (エンターテインメント部門主査 / プロデューサー)
出演：太田 敬三 (大賞『Wii Sports』)
辻本 良三 (優秀賞『モンスターハンターポータブル 2nd』)
小島 秀夫 (優秀賞『メタルギアソリッド4』)
- エンターテインメント部門受賞者シンポジウム-2 [2月16日(土)13:30-15:00]
司会：福井 信蔵 (エンターテインメント部門審査委員
/ クリエイティブディレクター)
出演：田中 英生 (優秀賞『気づいていますか。』)
勅使河原 一雅 (優秀賞『DAYDREAM』)
- アニメーション部門受賞者シンポジウム [2月17日(日)13:30-15:00]
司会：鈴木 伸一 (アニメーション部門主査 / アニメーション監督)
出演：原 恵一 (大賞『河童のクゥと夏休み』)
山村 浩二 (優秀賞『カフカ田舎医者』)
辻 真先 (功労賞 / アニメ脚本家・ミステリ作家)
- マンガ部門受賞者シンポジウム [2月11日(月・祝)13:30-15:00]
司会：モンキー・パンチ (マンガ部門主査 / マンガ家)
しりあがり寿 (マンガ部門審査委員 / マンガ家)
出演：郷田 マモラ (大賞『モリのアサガオ』)
武富 健治 (優秀賞『鈴木先生』)



昨年のシンポジウムの様子

C2. 「テーマシンポジウム」

メディア芸術に関して様々なテーマでディスカッションする「テーマシンポジウム」。

アーティスト、技術者、研究者、キュレーター、教育者などが語り合います。

- アジアから文化力 - アジアのアートフェスティバルの可能性と展望 - [2月7日(木)16:00-17:30]
司会：長谷川 祐子 (アート部門審査委員 / キュレーター)
出演：パク イルホ (第5回ソウル国際メディアアートビエンナーレ 事務局長)
ザン ガー (SYNTHETIC TIMES -media art CHINA 2008 ディレクター)
- アートとテクノロジーの融合 - 何を生み出したか？何を生み出すのか？ - [2月14日(木)16:00-17:30]
司会：原島 博 (アート部門審査委員 / 東京大学大学院教授)
出演：坂根 徹夫 (情報科学芸術大学院大学名誉学長 / 多摩美術大学客員教授)
鈴木 康広 (東京大学先端科学技術研究センター特任助教)
久納 鏡子 (メディアアーティスト)
- なぜ、日本のマンガは世界を征したのか？ [2月15日(金)18:00-19:30]
出演：里中 満智子 (マンガ家)
浜野 保樹 (メディア芸術祭運営委員 / 東京大学大学院教授)
松谷 孝征 (手塚プロダクション社長)

D1. 「アジア学生アニメコラボレーション」

今回で4回目となる「アジア学生アニメコラボレーション」。今年もアジアからの留学生と日本人学生が集い、3日間かけて共同で短編アニメーションを制作します。爆風スランプのサンプラザ中野さんが今回のために作ったオリジナル楽曲から喚起されるイメージでアニメーションを制作し、ミュージックビデオに仕上げます。

■アジア学生アニメコラボレーション発表会 [2月8日(金) 16:00-17:00]

プロデュース：中谷 日出 (NHK 解説員)

講師：伊藤 有壱 (アニメーション作家)

今 敏 (アニメーション監督)

うた：サンプラザ中野 (爆風スランプ)

参加：アジアからの留学生と日本人学生

*展示内容や、出演者、スケジュール等は現在計画中のものです。予告なく変更になることもあります。予めご了承ください。

*最新情報は Web サイト (<http://plaza.bunka.go.jp/>) で更新していきます。

贈呈式・祝賀会のご案内

受賞者・審査委員が一堂に会す贈呈式では、受賞者へのインタビューや受賞者全員の記念撮影などを予定しています。その他、祝賀会と内覧会を開催します。取材のお申し込みは別紙にてお願いいたします。

■ 贈呈式	2月5日(火)	18:00～19:00	東京ミッドタウン ミッドタウンホール B
■ プレス向け内覧会	2月5日(火)	15:00～16:00	国立新美術館 企画展示室 2E
■ 内覧会	2月5日(火)	16:00～18:00	国立新美術館 企画展示室 2E
■ 祝賀会	2月5日(火)	19:15～21:00	東京ミッドタウン ミッドタウンホール A

※贈呈式、祝賀会、内覧会にご招待者のみ

プレス向け内覧会および説明会

報道関係者の皆様に上記内覧会の前に作品をご覧くださいと時間を設けております。解説を交えた展示会場の簡単なツアーを予定しています。参加希望の方は別紙申込書にてお申し込みください。

- 日時：2月5日(火) 15:00～16:00
- 場所：国立新美術館 企画展示室 2E 内 シアター
- 受付：企画展示室 2E 入り口受付にて 14:45～

講堂スケジュール シンポジウム/ Media Art in the World(プレゼン&上映/講演)/上映

2月7日(水)	
10:20-11:40	上映「アート部門 映像作品」
11:40-12:30	上映「エンターテインメント部門 映像作品」
13:30-15:00	プレゼン&上映「オタワ国際アニメーションフェスティバル」
16:00-17:30	テーマシンポジウム「アジアから文化力」
2月8日(金)	
11:00-12:00	特別講演「シーグラフ：ポール デベヴェック」
13:00-14:30	プレゼン&上映「シカフ」
16:00-17:00	発表会「アジア学生アニメコラボレーション」
18:00-19:30	受賞者シンポジウム「アート部門」
2月10日(日)	
15:45-17:45	プレゼン&上映「シーグラフ・エレクトロニックシアター」
2月11日(月・祝)	
10:30-12:30	プレゼン&上映「シーグラフ・エレクトロニックシアター」
13:30-15:00	受賞者シンポジウム「マンガ部門」
16:00-17:30	受賞者シンポジウム「エンターテインメント部門(1)」
2月14日(木)	
10:15-12:20	上映「学生 CGコンテスト 動画部門」
12:30-14:15	上映「Genius Party」
16:00-17:30	テーマシンポジウム「アートとテクノロジーの融合」
2月15日(金)	
10:20-13:55	上映「アニメーション部門 短編作品 (1)(2)」
15:00-16:30	プレゼン&上映「トランスメディアレ」
18:00-19:30	テーマシンポジウム「なぜ、日本のマンガは世界を征したのか？」
2月16日(土)	
10:30-12:30	上映「FREEDOM」
13:30-15:00	受賞者シンポジウム「エンターテインメント部門(2)」
15:30-15:56	上映「赤色エレジー」
16:10-17:50	上映「ピアノの森」
2月17日(日)	
10:30-12:20	上映「攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX Solid State Society」
13:30-15:00	受賞者シンポジウム「アニメーション部門」
15:15-17:55	上映「カフカ田舎医者」「河童のクゥと夏休み」

展示会場内シアター 上映スケジュール

2月6日(水)	2月13日(水)
10:10-11:25 「アート部門 映像作品」	10:10-11:20 「トランスメディアアーレ」
11:40-12:05 「電腦コイル」	11:30-13:25 「アニメーション部門 短編作品(2)」
12:20-13:40 「オタワ国際アニメーションフェスティバル」	13:35-15:40 「学生 CGコンテスト 動画部門」
13:55-15:40 「Genius Party」	15:55-17:45 「攻殻機動隊 S.A.C. Solid State Society」
15:55-16:45 「エンターテインメント部門 映像作品」	
17:00-17:45 「コードギアス 反逆のルージュ」	2月14日(木)
2月7日(木)	10:10-10:30 「うっかりベネロペ」
10:10-11:55 「アニメーション部門 短編作品(1)」	10:40-11:05 「精霊の守り人」
12:05-12:35 「天元突破グレンラガン」	11:15-12:40 「プリ・アルス・エレクトロニカ」
12:50-14:30 「ピアノの森」	12:50-15:10 「河童のクゥと夏休み」
14:45-16:10 「シカフ」	15:20-15:50 「赤色エレジー」
16:25-17:10 「DARKER THAN BLACK -黒の契約者-」	16:00-17:15 「アート部門 映像作品」
17:20-17:45 「もやしもん」	17:25-17:50 「やさいのようせい N.Y.SALAD」
2月8日(金)	2月15日(金)
10:10-12:15 「学生 CGコンテスト 動画部門」	10:10-11:50 「ピアノの森」
12:30-12:55 「精霊の守り人」	12:05-12:50 「コードギアス 反逆のルージュ」
13:10-15:20 「FREEDOM」	13:00-13:50 「エンターテインメント部門 映像作品」
15:35-16:05 「赤色エレジー」	14:00-14:25 「もやしもん」
16:20-17:40 「エレクトロフリンジ」	14:40-15:05 「やさいのようせい N.Y.SALAD」
17:55-19:45 「攻殻機動隊 S.A.C. Solid State Society」	15:20-17:10 「攻殻機動隊 S.A.C. Solid State Society」
2月9日(土)	17:25-19:45 「河童のクゥと夏休み」
10:10-12:05 「アニメーション部門 短編作品(2)」	2月16日(土)
12:15-13:05 「おじゃる丸 満月ロード危機一髪」	10:10-11:55 「アニメーション部門 短編作品(1)」
13:15-14:35 「シーグラフ・エレクトロニックシアター」	12:05-14:00 「アニメーション部門 短編作品(2)」
14:45-15:10 「やさいのようせい N.Y.SALAD」	14:10-14:40 「天元突破グレンラガン」
15:25-17:45 「河童のクゥと夏休み」	14:50-15:15 「精霊の守り人」
2月10日(日)	15:25-15:45 「うっかりベネロペ」
10:10-10:55 「コードギアス 反逆のルージュ」	16:00-17:45 「Genius Party」
11:05-11:55 「エンターテインメント部門 映像作品」	2月17日(日)
12:05-12:30 「電腦コイル」	10:10-10:55 「DARKER THAN BLACK -黒の契約者-」
12:40-14:20 「ピアノの森」	11:05-11:55 「おじゃる丸 満月ロード危機一髪」
14:30-15:45 「アート部門 映像作品」	12:05-12:35 「赤色エレジー」
15:55-17:40 「Genius Party」	12:45-13:10 「電腦コイル」
2月11日(祝・月)	13:25-15:30 「FREEDOM」
10:10-10:40 「天元突破グレンラガン」	15:40-17:45 「学生 CGコンテスト 動画部門」
10:50-11:15 「もやしもん」	
11:25-13:10 「アニメーション部門 短編作品(1)」	
13:20-13:40 「うっかりベネロペ」	
13:50-14:35 「DARKER THAN BLACK -黒の契約者-」	
14:45-16:50 「FREEDOM」	
17:00-17:50 「おじゃる丸 満月ロード危機一髪」	

●当日取材をご希望される方は、こちらの申込書にてお願いいたします。

申込先 FAX：03-3564-5238

文化庁メディア芸術祭事務局 行

第11回 文化庁メディア芸術祭 取材申込書

取材を希望されるものにチェックしてください。

- 贈呈式・祝賀会（受付開始 17：00～） 2月5日（火）18：00～21：00
- プレス向け内覧会（受付開始 14：45～） 2月5日（火）15：00～16：00
- 内覧会 2月5日（火）16：00～18：00
- 学生CGコンテスト表彰式、受賞記念パーティー 2月10日（日）13：00～15：00

- シンポジウム []
[]

※ご取材になりたいシンポジウム名をお書き下さい。

- その他 []

※会期中の展覧会への取材につきましては、会期時間内の制限はございませんが、事前にご一報いただきますようお願い申し上げます。

■ 御社名

■ 媒体名

■ 芳名

■ ご同伴者名（合計 名）

- 持ち込み機材 スチールカメラ []台 ビデオカメラ []台
 その他 []
-

■ ご住所

■ TEL

■ FAX

■ 携帯

■ E-Mail
